「安全マップ」を活用した交通安全学習の事例

交通

中学校　第１学年　特別活動（学級活動）

授業づくりのポイント

○交通安全教室を実施し、自転車点検の方法や自転車シミュレータなどの体験から正しい自転車の乗り方を学習し、事故防止について考える。
○自転車通学をしている生徒の視点による通学路の安全マップを作成することにより、通学路における危険箇所を知り、自ら命を守る態度を養う。
○「命の尊さ」を知り、安全に生活する習慣を身に付け、地域や社会に貢献できる態度を養う。

単元について

1　題材名　「自転車通学や自転車利用時における、生徒の視点による通学路の安全点検」

2　目　標

Ⅱ－２　自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用と点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全な乗車ができるようにする。

3　教材化の視点

本校は通学路が平坦ではなく、急な坂が多い。また、通学路の道は狭いが、近隣に採石場があり大型ダンプトラックの往来が激しい。このため自転車通学や日常生活での自転車の利用は注意が必要である。

本校は伝統として、保護者、地域の方及び関係機関の協力の下、定期的に自転車点検の方法や自転車シミュレータなど正しい自転車の乗り方についての交通安全教室を実施してきた。今回は、自転車通学における通学路の安全点検として生徒の視点に立った「安全マップ」の作成を通して、危険箇所の確認と自ら命を守る意識を向上させる。

指導計画（３時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○正しい自転車の乗り方、自転車の点検・整備方法について学ぶ。 ○自転車シミュレータを体験する。	◎自転車の安全な乗り方、点検・整備について理解を深めさせる。 ◎交通ルールを守って安全に乗車するよう促す。
2	○警察官、地域の安全指導員による安全指導を通して、自転車の正しい乗り方を学ぶ。	◎警察官、地域の安全指導員の指導の下、自転車の運転を校庭で実践させる。 ◎交通ルールを守らないことや少しの油断が、事故につながることを実感させる。
3（本時）	○自転車通学路の安全マップを作成して、通学路の危険箇所を確認する。	◎自転車通学で遭遇した危険なことや危険箇所について、生徒の視点から話し合わせる場を設定する。

指導事例（第３時／３時間）　（第３時間目：各教室）

1 ねらい

・自転車通学における「安全マップ」を作成し、危険箇所の確認と危険防止の対策を図ることで自らの命を守ることの意識を高める。

2 ポイント

・生徒に対し実施した「自転車運転についての意識調査」結果と地域の交通事故の現状との違いについて理解させる。
・「安全マップ」を作成し、危険箇所や危険防止対策などについてグループで話し合わせることにより、自らの命を守ることの意識を高めさせる。

３　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　　■評価（評価方法）
導入	○前時までの学習を振り返ったり、地域の現状と意識調査の違いについて理解したりして、本時のねらいを明確にする。	◎地域の現状について説明し、生徒の意識との違いについて理解させる。 ◎安全マップがなぜ必要かを説明する。
	通学路の危険箇所を地図にまとめ、自ら命を守るためにできることを考えよう。	
展開	○自転車通学の生徒、自転車を頻繁に使用している生徒が自転車の使用状況について発表する。 ○自分たちが通学している学校前の地図を見て、交通安全の視点から気付いた点を発表する。 ○自分たちが通学している地区の地図に、通学路の安全マップを作成する。 ○明確になった危険箇所については、どのように行動すれば良いか話し合う。 	◎多くの生徒が、様々な場面で自転車を使用していることを理解させる。 ◎同じ地区同士のグループで活動させる。 ◎通学路はどのような地形で、道路はどのようになっているのかについて話し合わせる。 ◎地図の中に付箋で、危険箇所を記入させる。 ■自転車通学における「安全マップ」の作成を通して、危険箇所の確認と危険防止の対策を考えることができる。（観察）
	○各グループで作成した安全マップを拡大して投影し、全体に対して発表する。	◎発表後は、それぞれの地区の地図を黒板に貼り、大きな学区域の地図になるようにする。
まとめ	○本時の活動を振り返り、ワークシートに記入する。	◎自転車運転に対する考え方の変化、自ら命を守る大切さ、地域や社会に貢献することの大切さをワークシートに記入するよう促す。 ■自転車通学における「安全マップ」の作成を通して、危険箇所の確認と危険防止の対策を考えることができる。（ワークシート）

生徒の感想

・授業を通してたくさんの危険な場所が出たので、被害者にも加害者にもならないようにしていきたい。 危険な場所を通るときは、授業で話し合った行動を取れば、自分が事故を起こすことがないと思う。だからどんなに急いでいても、授業のことを思い出していきたい。

・交通事故に遭わないためには、どうすればよいか、また、交通事故を起こさないようにするにはどのようにすればいいかなど、今回はたくさんのことを学びました。中学校に慣れ始め、通学の時の安全もあんまり意識できていない人もいると思うので、まずは一人一人が安全に過ごすための工夫を考えていきたいです。また、危険な場所では、「どうすればいいか」ということも知ったので、今後に活かしていきたいと思いました。

生徒の変容

・交通安全に関するアンケートの結果からは「小学校の時より、交通安全に対する意識が高まった気がする」が８１％、「自転車における通学路の危険に関する知識が増えた」が６８％になるなど、生徒の意識の向上が見られた。

・班での話し合い活動を通して、自分の考えと異なる考えを知ることにより、通学路の危険について生徒自身が考え、どのようにしたら「自分の命を守れるか」を真剣に考えていた。

スケアード・ストレイト方式による交通安全教室を通して、自転車の安全な利用の仕方について考える学習の事例

交通

高等学校　１～３学年　特別活動（学校行事）

授業づくりのポイント

○通学実態や課題について理解させるとともに、交通安全に向けての改善点について確認し、自他の生命や安全の大切さを理解させる。
○スケアード・ストレイト方式の交通安全教室に参加することで、事故の危険性について体感し理解を深める。

単元について

1　題材名　「交通法規を遵守し、自転車の安全な利用の仕方について考える
～スケアード・ストレイト方式による交通安全教室を通して～」

2　目　標

Ⅱ－２　自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全な運転ができるようにする。

Ⅱ－３　二輪車・自動車の特性と心得

二輪車・自動車の特性について理解し、道路の安全な歩行ができるようにする。

3　教材化の視点

生徒自らが日常の交通安全について、理解と改善が図れるよう、「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」を実施し、通学時の交通に対する生徒の意識は高まってきた。そこで、通学時のみならず日常生活時でも交通ルールに対する意識を更に高めていくために、「教科等における安全学習」でスケアード・ストレイト方式による交通安全教室を計画した。スタントマンによる交通事故の実演や警察署の方による指導を通して、自転車事故の現状や重大さについて理解を深めさせ、自転車利用時に交通法規を守り、被害者にも加害者にもならないための交通安全意識を高める。

指導計画（３時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○『交通安全チェック』アンケートに答え、自分の交通ルールに対する意識を確認する。	○交通安全チェック時に、チェック項目の法令や違反時の罰則が分かる資料を配布し、生徒に意識付ける。
2（本時）	○スケアード・ストレイト方式による交通事故の実演を見学する。 ○ワークシートに記入することにより、自分自身の歩行及び自転車運転における改善を明確にする。	○少しの油断や交通法規違反から命に関わる重大事故が起きてしまうことを実感させる。 ○ワークシートは意識の変化を理解させるために、事前アンケートと事後アンケートで対比できる内容を設定する。
3	○警察の方をゲストティーチャーとして招き、自転車事故と加害責任についての講話を聞く。	○加害者となった場合の事故例を紹介してもらい、交通法規を守って自他の安全に気を付けた乗車ができるようにする。

指導事例（第２時／３時間）

１　ねらい

・交通事故の怖さや自動車の特性を知り、危険を回避する能力を養うとともに、交通法規を遵守する意識を高める。

２　ポイント

・スタントマンによる交通事故の実演（スケアード・ストレイト方式）を見学することにより、交通事故の発生原因や自転車の危険運転について理解する。

３　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　■評価（評価方法）
導入	○　本時のねらいと学習内容を理解する。 自転車事故を起こさないようにするためには、どうすればよいか。	◎　通学時を含む日常生活の歩行や自転車の乗り方、交通事故の状況を説明し、今回の交通安全教室の目的や意義を理解させる。
展開	○　スケアード･ストレイトによる交通事故の実演を見学する。 【実演内容】 ①時速４０kmで走行する乗用車と自転車の衝突事故の再現 ②走行違反した自転車の衝突事故の再現 ③見通しの悪い交差点での飛び出し事故 ④大型車の内輪差による巻き込み事故 ⑤信号無視した自転車の衝突事故 ⑥自転車の傘さし走行による接触事故 ⑦自動車の死角による横断歩道上での事故 ○　警察署の方による講話を聞き、交通ルールの重要さについて学ぶ。	◎　それぞれの場面において、解説や発問を行い、事故の原因や影響について考えさせる。 ◎　自分の問題として考えるように助言する。 ◎　自転車の危険な乗り方は自分だけでなく、他人を巻き込んでしまうことを自覚させる。
まとめ	○　気付いたことや自分の気持ちの変化、改善点について、ワークシートにまとめる。 （各教室にて）	■　交通規則遵守の重要性を理解し、自分自身の歩行及び自転車運転における改善点を明確に、ワークシートに書いている。（ワークシート）

生徒の感想

・今まで特に意識せずに自転車を運転していたが、授業を通して、安全運転に気を付けて自転車走行したいと思った。急いで運転していた時に、危ない思いをしたことがあった。交通事故に遭わないためにも、早起きをして急いで通学しないように心掛けたい。「交通事故は災害と違って心掛け一つで防げるもの」という言葉が胸に響いた。

・トラックの内輪差が大きいことや、自動車の運転手には大きな死角があることに驚いた。交差点では、運転手とアイコンタクトをしてから走行したい。事故の現場を解説してもらうことで、当たり前と思っていたことが、そうではないことがよく分かった。

生徒の変容

・自転車通学時にイヤホンを付けたまま走行する生徒、スマートフォンを使いながら走行する生徒、傘さし走行する生徒はいなくなるなど、交通法規を遵守して運転している姿が増えた。交通事故の無事故期間が長期にわたり継続するなど、生徒の交通安全意識が高まった。